

特別活動部会

<県研究主題>

望ましい集団活動を通して、児童一人ひとりの自主的、実践的な態度の育成と
ゆたかな人間関係をはぐくむ指導の充実と評価の改善・工夫

提案 1

提案者 熊澤 佐祐里 (横須賀地区)

<研究主題>

学級活動『二分の一成人式をしよう』
～各教科・道徳との関連から～

1 提案内容

本校ではここ数年、4年生になると二分の一成人式を行うのが定番となっている。

これまで育ててくれた家族や周りの人たちに、「感謝の気持ちを伝える」ことに焦点をあて、自主的、実践的に行っていく学級活動で取り組むことにした。また、「感謝の気持ち」は、内から自然と湧いてくるものでなければ意味がないと考え、道徳教育との関連を図る必然性があった。

(1) 研究テーマとの関わり

① 児童の実態

明るく素直で、活動には前向きに意欲をもって取り組む姿が見られる。年度当初に「こんな学級にしたい」という学級に対する一人ひとりの思いや願いをみんなで出し合い、話し合いを重ねて「みんなで元気になくよく学ぶ友だち思いの学級」が決定した。

② これまでの話し合い活動

7回の話し合い活動を行ってきた。年度当初は、昨年度までにカードを使用した学級会の経験もあり、スムーズにスタートすることができた。司会進行を輪番制で行うことは初めての様子で、緊張し思うように進行させるのが大変な時もあるが、自分の番が来るのを楽しみにしている児童も多い。議題については、教員からの提案や児童からの提案など、その時々の学級の実態に応じて決めてきた。

(2) 授業実践

① 道徳の授業より

話し合いを通して思いを共有し模造紙に記録した。

ア 「命の大切さを感じて」

誕生の話から生を受けたことの素晴らしさを感じ、自分自身の命がいかにかけがえのないものか、感じ取らせるようにした。

イ 「家族みんなで協力し合って」

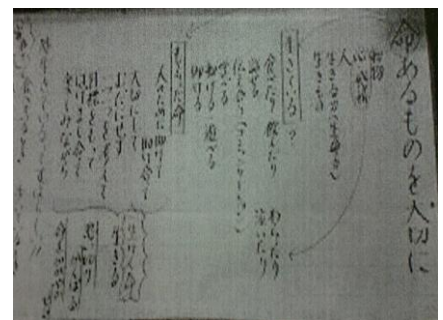
インタビュー形式で家族に誕生や小学校入学などの各場面での思いを聞くことにより、自分に対する家族の思いを知らせた。

ウ 「そんけいと感謝の気持ちをもって」

注目する対象が、日頃お世話になっている家族から、日々の生活を支えてくれている地域の方々、長く生活を支えてくれた高齢者まで広がるようにした。

② 学級活動の授業より

ア 話し合い活動



二分の一成人式では、次のような意見が出された。

- ・手紙 ・作文 ・しかけカード ・プレゼント（グラスアート） ・歌
- ・リコーダー ・今昔くらべ ・かざりつけ ・宝探し ・衣装

<決まったこと>

- ・手紙&しかけカード（しかけカードに手紙を書き、一人ずつ読む。）
 - ・今昔くらべ（手紙を読む前に、その人の小さい頃の写真を写し、誰かを当てる）
 - ・歌&夢発表
（全員の顔を見せたいので、指揮者はなし。音楽にのせて将来の夢を発表していく。）
 - ・プレゼント（グラスアート） ・かざりつけ&衣装
 - ・役割分担 司会、始めの言葉、音楽、今昔くらべ進行、かざり、プログラム、衣装
- イ 実践してみて
- 道徳での学びを重ねたことにより、「楽しい会」から「感謝を伝える」と、めあてを絞っていくことができた。

2 協議内容

子どもが主体となるにはということを協議の柱として、以下のような協議がなされた。

(1) 話し合い活動、実践での子どもの育ち

- ・学級会の進め方がすごいが、どこを工夫したのか。

計画委員への担任の事前の助言、学級会カードの活用、司会台本の用意。中学年になると慣れてくる。経験の積み重ねが大事。

- ・感謝の気持ちを見据えた活動だったが、担任の中ではどんなイメージが「感謝」なのか。「手紙」「歌」「言葉」「もの」

(2) 年間を見通した指導について

- ・感謝の心情がふくれた時、二分の一成人式以外の意見も出たと思うがどうつなげたのか。

今までは「総合的な学習の時間」で扱うことが多かったが、子どもたちは、自然な流れとして受けとめていた。

- ・「感謝」という大きなテーマのもと道徳と関連付けて行った実践だがどうだったか。

ねらいをはっきりさせて話し合いに臨んでいるので、自分のこととして参加、友達の話を聞きながら、自らと比べて考えていた。

3 まとめ

(1) 二分の一成人式について

学校によっては定番となっており、子どもにとっては魅力的な活動だが、この活動でどんな力をつけるのか、はっきりさせることが大切である。保護者から求められていて子どもたちもなじみであるところに課題がある。

(2) 道徳との関連と活動計画について

関連させた実践が少ない。「感謝」をねらいとして、道徳、学級活動どちらのねらいも評価されるべきもの。学級活動がゴールとなっているが、活動後に道徳をおこなっても効果的ではないか。日々の実践とつなげていくことが大切である。

<研究主題>

子どもたちが生き生きと行う集団活動のための学級会の取組
 — 第3学年学級活動「お楽しみ会をしよう」 —

1 提案内容

(1) 特別活動における話し合い活動について

自分以外の他者にも目を向け、「私」が思っていたことを、「私たち」の思いとして受け止め共有し、お互いに折り合いをつけながらかわっていくような望ましい集団を作っていくために、話し合い活動を有効な手立てと考え、研究に取り組んだ。

(2) 鎌倉市学校教育研究会について

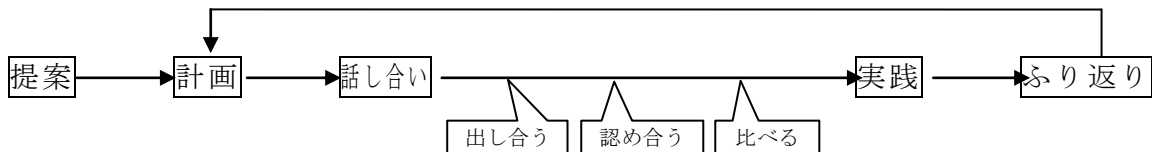
「話し合い活動のあり方～学級活動を通して～」のテーマのもと、今回は「ふり返り」を重点に研究に取り組んだ。

(3) 学級活動について

① 議題について

興味を持って継続して行えることとして、子どもたちの希望を生かし、「お楽しみ会」を行うことにした。めあて等「お楽しみ会」についての共通認識をもって取り組んだ。

② 活動の流れ



③ 活動の様子

活動の中で、子どもたちの意欲が高まり、集団としての意識が芽生えてくる様子が見えてきた。失敗も経験しながら、共に活動するためには何が大切なのかを考えられるようになった。また、教員の判断を待つ子も、回を重ねるごとに自ら提案する様子も見られた。

④ 取組の工夫

- ア 子どもたちが意欲的に取り組めるような道具の工夫
 - ・小グループ用の役割バッチ
 - ・全体司会者用原稿めくり表示
- イ だれでもが参加できるような配慮
 - ・黒板掲示のグッズ
 - ・活動の流れ掲示
 - ・学級会のポイント掲示 等

(4) 成果と課題

- ア 学級会の進め方の整理と、活動の内容の明確化によって、話し合い活動に生き生きと参加できた。計画委員会の事前準備により、自分たちで作る学級会という意識が持てた。
- イ 「ふり返り」の時間は、自分たちの活動を見つめ直す場面として効果的であった。
- ウ 折り合いのつけ方が難しい場面もあった。条件付き賛成や意見の合体なども考えられる。
- エ 「ふり返り」の時間の確保や、ふり返る内容を認識させることが難しい面があった。
- オ 小グループでの話し合いで、司会者の意見のまとめ方に課題が残った。

2 協議内容

- (1) 子どもたちに、折り合いのつけ方の視点やアドバイスを次のように与えた。
 - ① 「意見をつなげる」こと
 - ② 意見が割れた時は、「どうしたらいいか」を確認する
 - ③ 条件付きの賛成「みんなが楽しめるためにはどうしたらいい」をうながす
- (2) 小グループでの話し合いを入れたことにより、何か言わなければいけない状況が生まれ、自分のこととして捉えることができた。小グループの後は全体で話し合うが、そこでは初めグループとして意見は出すが、その後の話し合いでは、個人の意見として話し合いに参加することになる。
- (3) ふり返りの時間の持ち方として、初めは授業で1時間とっていたが、朝・帰りの会を使って細切れでも間をあけずに話し合うようにした。
- (4) 話し合いの時は、「いいねカード」と「不安カード」を使用した。単なる多数決にならないように、話し合いを深めるようにした。同じ意見なら黒板に貼るカードを増やさない。「不安カード」の不安解消のために対策となる意見を出す、どこまで話しても不安は解消できない場合もあるので時間でできることも必要である。
- (5) 「いいねカード」を出すとき、「いいね」の中身や質が大切である。譲る時は、葛藤があるので子どもたちの気持ちをくみ取ることが大切である。「いいね」の理由を書いて黒板に貼っていた時もあったが、小さくて見づらく時間もかかるのでやめた。
- (6) 遊びを決める時、やりたくない子や不安を持つ子に対して、やりたい子が何とかして説得しようとしていた。常にめあてに立ち返り、みんなが楽しめるものという視点で話し合いを深め、最終的に決めていた。

3 まとめ

- (1) 折り合いをつけるというのは崇高な目標である。それを達成するためには、子どもたちが日頃から「自分の意見は大事にされている」という思いをもてる土壌が大切である。
- (2) 理由カードを使用することをやめるなど、経過を踏んで活動が変化していった。集会を繰り返すなど、よりよい活動を追究していくことができた。「為すことによって学ぶ」が具現化できていた。
- (3) PDCAサイクルで活動が計画的に積み重ねられ、自主的実践的な態度を養うことができた。
- (4) 話し合いでは、小グループを取り入れることで、「安心して取り組める」「何回も出番がある」というよさがあった。日頃からの「意見が大切にされている」土壌があれば全員で話し合うことにチャレンジしてみてもよいのではないか。
- (5) ぶれない話し合いをするためには、同じ経験をしていること、話し合っていくことが大切である。
- (6) 今回はお楽しみ会に偏っていたが、いろんな集会を経験させるとよかった。
- (7) 各担任が学活の1～6年までの年間活動計画を頭に入れて、自分の学年の活動を充実させることが大切である。
- (8) 話し合いでは、板書の可視化・構造化は大切だが、学年に応じた工夫が必要である。また、何のために何を話し合うのか事前に把握しておくことが大切である